能登半島の被災地で支援活動にあたられた方にお話を聞きました

# 令和6年能登半島地震　支援活動リポート

渡邊富士男さん（飯樋町）の活動報告はP26をご覧ください。

**長田卓也さん（上飯樋）**

一般社団法人
阿武隈クラブIITATE

整骨院を営みながら、村民を支援する医療ケアのチームと連携して活動している長田さん。地震の一報を聞き、被災地の支援に向けてすぐに動き出しました。「出身の宮城県岩沼市で東日本大震災の津波被災を目の当たりにしている。身を寄せ合う初期の避難の厳しさを知っているだけに居ても立ってもいられなかった」。現地とつながり、福島県の災害派遣等従事車両の登録を得て、自費を投じ現地を何度も往復しています。「公式の避難所以外にも行政の支援が届くようになり、必要とされる物資や支援も変化している。フェーズに合わせた支援が必要」。避難所は〝避難者の生活の場〟として尊重し長居せず実のある支援を行います。

生産者から預かったイチゴを避難所へ。

避難者の診療にあたる本田医師。

整骨院の機材を運び体のケアを支援。

2月2日からの4度目の現地入りには、いいたてクリニックの本田徹医師が同行。村の許可車両と2台で物資を運び、公式・非公式を問わず避難所をめぐりました。被災をしながら支援者となっている住民とも交流し、その覚悟に寄り添いたいと思いを強くしています。「本当に必要な所にきちんと届けることが重要。そして我々が被災で得た教訓を伝え、今後に生かしていただくことが最も大切な活動だと思っています」。

**落合庸子さん**

健康福祉課健康係
保健師

村の保健師の落合さんはこの震災で立ち上げられたDC-CAT（災害派遣地域ケア支援チーム）を通じて輪島市の支援に入り、避難所となっている小学校の体育館で2月7日から1週間活動しました。

「避難している方は毎日のように崩れた家に通い、片付けたり物を探したりしていました。一瞬にして住む家や財産を失った方ばかり。二次避難の難しい方が多かった」。

一方、出かけられない人は避難所にこもる生活が続いてしまい、「高齢者の機能低下や栄養問題などがやはり起きてしまう」。落合さんらは、巡回する医療団と診察を必要とする人をつなぎ、また、生活不活発病の対策や清潔ケアのアドバイスなどを行い、避難所を支援しました。

落合さんは、東日本大震災の際には宮城県でボランティア活動を行い、その後復興支援で福島県に移住しました。「いつどこで被災し、避難者あるいは支援者になるか分かりません。現地でしか経験できないことがあり、支援を通して多くの学びをいただいています」。

**ボランティア活動・被災地支援をお考えの方へ**

被災地は、多くの方の息の長い支援を必要としています。しかし現地の状況を知らずに行くことは、かえって災害復旧の妨げとなることがあります。行動の前に情報収集や必要な準備を行ってください。個人で災害ボランティアとしての活動をお考えの方は、各被災自治体の災害ボランティアセンターに登録し、要請に応じて参加してください。

参考◀

石川県　内閣府



「『人・農・食・いいたて』未来につなぐ事業」に協力する2大学の報告会が開かれました

# 福島大学・明治大学 活動報告会

## 福島大学食農学類
飯舘村フィールド

Instagram

2月7日、交流センター「ふれ愛館」で、福島大学食農学類飯舘村フィールドの活動報告会が開催されました。学生の皆さんは今年度、ジャガイモ品種「イータテベイク」ともち米品種「あぶくまもち」の2つの地域資源に着目して、村の賑わいづくりに取り組みました。会では3年生が、8月のワークショップ「真夏の宝探し～イータテベイクを掘って！学んで！食べて！」の成果や、「あぶくまもち」のケーキと他のもち米のケーキを比較した分析結果などを報告。取り組みを引き継ぐ2年生は、来年度の活動案を発表しました。

ワークショップの報告動画はインスタグラムでも公開しています。

報告に耳を傾けた来場者と、自由に意見を交わしました。

## 明治大学農学部
本所ゼミ

Instagram

卒業を控えたゼミ生も参加。「今後も村と関わり続けたい」。

本所靖博先生

2月13日には、明治大学農学部・本所ゼミの活動報告会が同会場で行われました。本所ゼミは農業経済系のゼミで〝つくる人と食べる人をつなげる〟多彩な事業を各地で展開しています。飯舘村での独自の活動は7年目。今年度は首都圏におけるPR活動として、マルシェや学園祭での農産物販売、企業とコラボしたメニューの開発や飲食店展開などを、関係者を村に呼び込みながら実行しました。

報告の中で「村の方の熱い想いに触れたことが活動の始まり。出会いに感謝しています」と語った本所先生。深化を目指す次年度の活動にも注目です。

生産者が協働の成果に感謝を伝えました。「本所先生の人柄に惚れて活動を共にしています」。